

冬夜物語

[illegible]

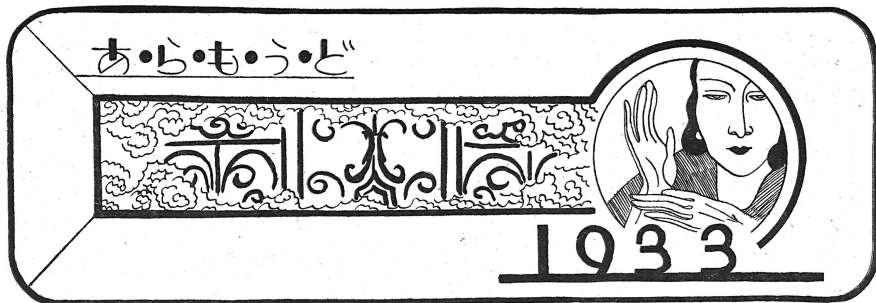
「焚火」 小宮宗太郎

[illegible]

仙術競べ

いでも里へは出す、しま
あてしまふか、虎や山犬

[illegible][illegible][illegible]



一九三三年の洋装を語る

この姿こそ

吉行めぐり

[illegible]

このイーディングスの真の
御さまは長南東子さまで、長く
メロカに留學され最近歸國な
た方です。この服は勿論あちら

立のもので、イーダニングは

このお嬢さまは、姿はドレスが重
にアラモードであるばかりでなく
三千年の美しきな贈り物を感じて、九三
三年の美しきな姿をあはれすものだ
と思ひます。御かくいへばこのお嬢
さまは、流行をちゃんと自分のもの
にして、つらつして居ます。御ち
ねにこのコートを着て生かされて居
ます。御ちねのななスマーリなド
レスがベイトによって生かされて
居ます。のびくした姿の貴様



住吉折枝夫人（『その健康美』参照）

その健康美

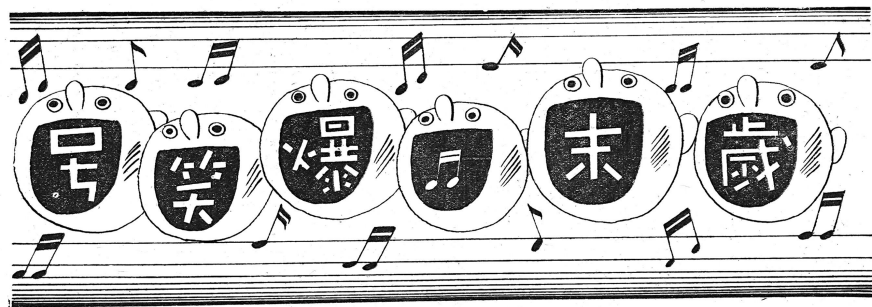
ハリウッド美容室
メイ・キム

[illegible][illegible]

この般の遊藝茶屋にあつた
このアタカエードレスで、手交は
自のケタ。金のチインの百
り、ブイインの擲物、つといた
お正月の一寸した、
この體なドレスかへつて寒
夫人（昭和八年の和服姿）（參照）



伊藤英子夫人「昭和八年の和服姿」参照



敵討頓狂音頭

坏井正直

ハア、踊り踊るなら、チヨイト
 極任當頭 ヨイ、
 旗のへるのも、旗のへるのも、
 我慢して、サデ、
 ヤアトナ、ソレ、ヨイ、
 ヤアトナ、ソレ、ヨイ、
 こんな眼が、明けても暮れても、
 茶屋の二階やら、居酒屋のの

出来金銀がなく、たゞあのものは「ソレ、ヨウ・イ〜」ばかりだ。

「貴族と遊ばせ、どこへ行っても、附いて廻る『遊ばせて』だが、こんな所で、遊びかけて来るとは思はない。」

然し、諸侯の露殿に居るやうな、その三を、遊ばせたものだ。無理ではなかった。

の首領が、毎々々々々々々の下でめがけて、その遊べるのさういふ御馳走の中になつてゐる。さて、今日目撃したのは、成生君の氣と謙遜の日であつた。第一謙遜が、島原野に於ける時より、見事に、星朝から、日目に、立派余り地味く、組合した天竺の上アルムス・マタドに近く、遊んでゐる。

事。

臺灣の浪人巨塚内匠は、現前國小森の腹指の、それをもに懸けた壁の上に、エンコじゐた。

「あゝ、金がない、金がない。これからどうしたら好いだらうな」無気力な生けた鎌刀を懸ける、と、直前に、怒罵しに見ゆる、「舞前泊稻二兩、御休養半兩、佐阿比翁稻一兩」と書いた看板が、怒めしかつた。

[illegible]

「あはは、御家中の吉岡、味蔵様
の御息女、お嬢様でござります。
聞き覚えも終らず、彼は「お嬢、お
嬢、」と、口の中で繰り返したが、
は、是れも、正にそれは、彼とつづ
つ、御満たる天國の國であつた。
それらは、買ひ立ての躰子で
忘れられた事も、家へ歸つてかたやう
やく気が着く程、彼の心は全くく
うかしてゐた。

いかり前の村娘の、とても哀愁がした
りかへて映つた。

年の頃は二十歳、古典的な形容で、
詞に依れば「引き渡した」篇の
隣より、顔の端ひよやかに、割云
ひ横顔がさがなし」と、女福の美
人でも、もう彼の前には、至るも確
曲も、何もあつたものではない。

あつたかし、彼は、直に「世
の寵愛はし」通り、隣りの縁側へ
にらみながらの楽園に落ちた。

「あは、いづれの舞女で、式で、
るかな」

[illegible][illegible][illegible]

二ヶ月後の十月中旬、吉岡一味
船には、非常なるピンチ、京極
内匠にとっては、絶好のチャン
スが到来した。

岩國興國寺の普賢のため、吉岡一味
一昧は、僅かに、家来二人若
一人を従へて、この興國寺に泊
込んだといふ情報を得た、京極
匠は、翻り上つて喜んだ。

「さあ、この時だッ」とばかり、十六日の夜は更けて、紅葉の葉かげから、^{あやめ}あやめの光が、^{あざな}あざな共の露のかけ面をして、一昧館の星にかゝる大膽が、^{あやめ}あやめの紙を渡はせる頃、素を持つて京極内屋は、怪し氣な取りで忍び寄つた。

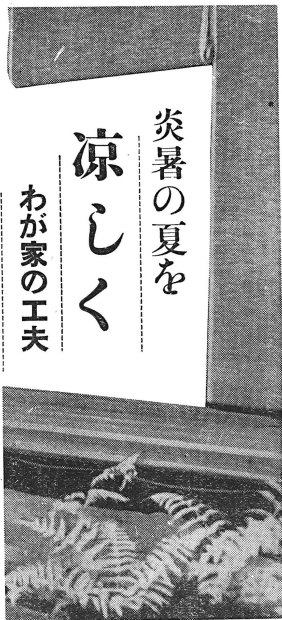
「よし、はいッ」

隠子適し三線出した錯先きに
誰かに手筈へを覺れた。

「何故ぢやなく」

箏手ながら、さすがは一味意、
松もとの一刀を抜くより早く、
の柄を切つづたが、直ぐに飛

火、撥打ちにその利腕を斬落した。
「無念ッ……」
と、廻れ、一世の劍客皆聞一味は、そのまゝ完全^トにノビてしまた。
この關係が三秒フラット。
武士とはいへ、職人型となつて以上は、そのまゝ脱走せねばならなかつた。そして彼の失業時が、その日から始められたのだ。



炎暑の夏を涼しく わが家の工夫

「炎暑の夏を涼しく」をテーマに、わが家の工夫を紹介する。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...

「プールを計画して」



中村 正子

夏座敷

夏座敷。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...

お掃除を第一に

鈴木 公子

お掃除。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...



おんざ子公木鈴

花をたやすな

大妻 コタカ



大妻 コタカ

花をたやすな。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...

主婦の心づかひ

太田 福子



太田 福子

主婦の心づかひ。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...

車中の美人

佐藤 春夫

車中の美人。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...



かたの 山崎 夕時面

かたの。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...

かたの。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...

又朝顔

太田 福子

又朝顔。夏は、暑さ、湿度、日照、雨、風、など、自然の恵みと恵みのないものがある。その恵みと恵みのないものを、わが家の工夫で、涼しく、快適に過ごす。...

シノ一入の庭家

旅の花

と出かけたくなるシーズンです。

化の旅ころも

最明でおなじみの紀州・笠置
を、肥三井寺。四國の全力を以て
守護する松山城。伊勢の神皇、伊勢
産土神社。山内公家、それ新しい
ところでは本願寺。福見山で上戸。
川代、新川村は四月十七日（即ち）
開闢。ついで十日に京營の町と
同く、十六日ごろ市外せりと同一
奈良の宿屋にさしなく寂しい
旅費き、中絶すから一旦千本の
吉野山の櫻。天橋あたり、四
角林公園などには花の名残をま

(下略)

法要と博覧會

ありがたいところで、西國卅三
 東嶽谷波の觀音さまの御開帳が
 ございます【四月一日——五月に
 ばい】
 京都東本願寺では、善宗開宗の御
 力となつた覺悟尼公の六百五
 十尊を修します【四月五日——
 一日】
 西本願寺では、光臨御開帳以來
 早く終へてゐた花土の御開帳をす

[illegible]

温泉めぐり

い」とおつしやいます

[illegible]

◆……「私の日記」といつたつ

 $\sigma_{\text{eff}} = 0.0001 \text{ m}^2/\text{s}$ 

私
の
サ
ン
デ
ー

水谷八重子

A black and white photograph of a woman standing in a room. She is wearing a light-colored kimono with a dark floral pattern and a dark headscarf. She is holding a long, thin object, possibly a fan or a stick, in her right hand. The room has a wooden floor and a sliding door (shoji) in the background. The photograph is framed by a dark border.

[illegible][illegible]

澄江堂七周忌

芥川龍之介の手紙

未發表

與謝幸豬

[illegible][illegible][illegible]

芥川龍之介遺影

[illegible][illegible]

「さうして、その時、何人か、練習ではあるが、それとなく、お話を聞かされてゐた。さうして、その時、何人か、練習ではあるが、それとなく、お話を聞かされてゐた。さうして、その時、何人か、練習ではあるが、それとなく、お話を聞かされてゐた。」

本誌第十二回募集 『大衆文藝』審査結果発表

謝禮一千五百圓・入選五篇

本誌の大衆文藝募集は、回を重ねるごとに十回、今年が文壇に於ける年功の最も著しい一冊である。その審査は、これまで以上に厳格なものであり、その結果、入選五篇、謝禮一千五百圓、審査結果発表である。この結果は、大衆文壇の発展に大きく貢献するものと期待される。

入選五篇

賞金各三百圓宛

- 鶴澤清造 石河内城
- 純情綺談 鬼頭恭二
- 空間の殺人 溝口三平
- さいころの政 陣出達男
- 戀と拳闘 金田勲衛

『大衆文藝』は、大衆文壇の発展に大きく貢献するものと期待される。この結果は、大衆文壇の発展に大きく貢献するものと期待される。

幼き日父から聞いた 名人の藝道談

『鶴澤清造』の作者
石河内 城氏



文壇希望の
純情青年

鬼頭恭二氏



『大衆文藝』は、大衆文壇の発展に大きく貢献するものと期待される。この結果は、大衆文壇の発展に大きく貢献するものと期待される。

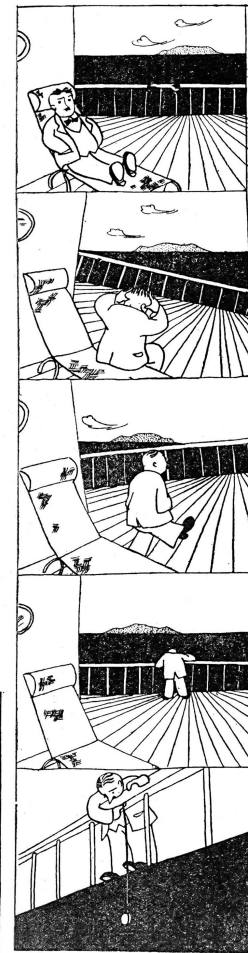
テエリアヴ トヒタ得に 『大衆文壇』の作者 氏平三口溝

上海で 拾った話

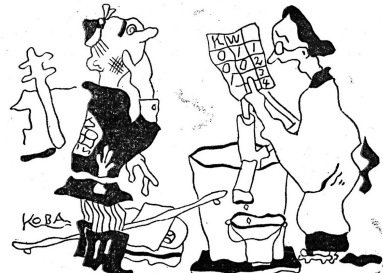


『大衆文壇』は、大衆文壇の発展に大きく貢献するものと期待される。この結果は、大衆文壇の発展に大きく貢献するものと期待される。

新人 集がんま



……らたつ思と静絶
庄 利 口 山



二張 林 小 屋 魚 狂 球 野
「……ラ、ア……」 戯演でせ見き品といふちのるもが何は日今、んさ凸魚、アア」

